

## 2003年2月の東北地方の天候

### 【2月の特徴】

- ・東北日本海側の降雪量少ない

#### (1)概況

上旬の中頃までは西高東低の冬型の気圧配置が続いたが、その後天気は概ね周期的に変化した。このため、東北日本海側では平年より晴れの日が多く、月降雪量は少なかった。また、月を通して強い寒気の南下が少なく、月平均気温は東北地方で高くなかった。

なお、20～21日は発達した低気圧の影響で、東北太平洋側の北部で局地的に大雪となつた。

月平均気温は東北北部で平年並、東北南部で高い。月降水量は東北北部で少なく、東北南部でかなり少ない。月間日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。東北日本海側の月降雪量は平年比47%と少ない。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については3ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、2ページ目下段の脚注を参照して下さい。

#### (2)天候経過

上旬： 中頃まで冬型の気圧配置が続き、東北日本海側は曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は概ね晴れた。しかし、強い寒気の南下は無く、東北日本海側でも晴れる日があった。期間の終わりは、気圧の谷や低気圧が短い周期で通過し雨の降る日もあったが、南から暖かい空気が流れ込んだため、気温は高く経過した。

平均気温は高い。降水量は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で多い。

中旬： 11日に本州の南岸を低気圧が通過した後冬型の気圧配置となり、東北日本海側は曇りや雪となったが、東北太平洋側では概ね晴れた。期間の中頃からは、天気が概ね周期的に変化し、冬型の気圧配置は長続きしなかった。20日に低気圧が本州の南岸を発達しながら東進した影響で、各地で雪や雨となり、東北太平洋側の北部では21日にかけて大雪となって、船舶被害や停電などが発生した。

平均気温は東北北部で平年並、東北南部で高い。降水量は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。

下旬： 天気は短い周期で変化したが、晴れの日が多かった。東北北部は寒気の影響を受けやすく、気温が平年より低い日が多かった。

平均気温は東北北部で低く、東北南部で平年並。降水量は東北北部で平年並、東北南部で少ない。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。

### ( 3 ) 月統計値の極値・順位の更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間、月最深積雪、月降雪量の3位まで。ただし、新庄・むつ・白河の月最深積雪は、統計期間が短いため1位に該当した場合のみ示す。新庄・むつ・白河の月降雪量は観測していない。)

#### 月降水量少ない方からの極値・順位更新

順位	地点名	降水量 (mm)	これまでの最小(mm)(年)	統計開始年	平年値(mm)
1 位	若松	15.5	16.0 (1995)	1954	70.2
2 位	新庄	72.0	68.0 (1998)	1986	145.3
	山形	20.0	19.3 (1954)	1891	70.2
	白河	9.5	4.5 (2000)	1994	41.4

#### 月間日照時間少ない方からの極値・順位更新

順位	地点名	日照時間 (h)	これまでの最小(h)(年)	統計開始年	平年値 (h)
3 位	大船渡	111.7	96.5 (1990)	1964	141.9

### ( 4 ) 月気候表 (2003年2月)

地 点	月平均気温(平年差) 階級	月降水量(平年比) mm % 階級	月間日照時間(平年比) h % 階級	月最深積雪(平年値) cm cm 階級	月降雪量(平年値) cm cm 階級
青森	-0.6 (+0.5) 0	65.5 ( 56)	87.7 ( 120) +	82 ( 111)	160 ( 213) 0
深浦	0.4 (+0.6) +	45.5 ( 59)	58.1 ( 119) +	17 ( 42)	60 ( 68) 0
むつ	-1.3 (+0.2) 0	54.0 ( 64)	97.6 ( 106) 0	54 ( 66) 0	--- ( ---) ---
八戸	-0.5 (+0.4) 0	53.0 ( 101) 0	114.3 ( 87)	35 ( 28) +	62 ( 50) +
秋田	0.7 (+0.5) +	61.5 ( 67)	74.6 ( 114) +	21 ( 37)	39 ( 78)
盛岡	-0.9 (+0.7) +	32.5 ( 59)	146.9 ( 114) +	44 ( 33) +	31 ( 55)
大船渡	1.3 (+0.4) 0	27.0 ( 46) 0	111.7 ( 79) *	2 ( 9) *	2 ( 18) *
宮古	0.2 (-0.1) 0	68.0 ( 85) 0	122.6 ( 81)	34 ( 29) 0	45 ( 45) 0
仙台	2.5 (+0.8) +	18.0 ( 37)	138.3 ( 91)	2 ( 13) *	3 ( 25) *
石巻	1.8 (+0.9) +	10.5 ( 24)	139.8 ( 86)	3 ( 13)	3 ( 24) *
山形	0.8 (+1.0) +	20.0 ( 28) *	107.4 ( 108) +	49 ( 46) 0	12 ( 93) *
新庄	-0.2 (+0.8) +	72.0 ( 50) *	74.1 ( 132) +	109 ( 123) 0	--- ( ---) ---
酒田	2.5 (+1.1) +	77.0 ( 67)	70.8 ( 118) +	15 ( 30)	27 ( 66)
福島	2.6 (+0.8) +	15.0 ( 30)	133.7 ( 93)	12 ( 18)	4 ( 42) *
若松	0.4 (+0.8) +	15.5 ( 22)	122.9 ( 126) + *	48 ( 46) 0	17 ( 113) *
白河	1.0 (+0.5) 0	9.5 ( 23)	163.4 ( 107) +	17 ( 14) +	--- ( ---) ---
小名浜	3.7 ( 0.0) 0	42.0 ( 68) 0	180.0 ( 103) 0	2 ( 4) 0	3 ( 7) 0

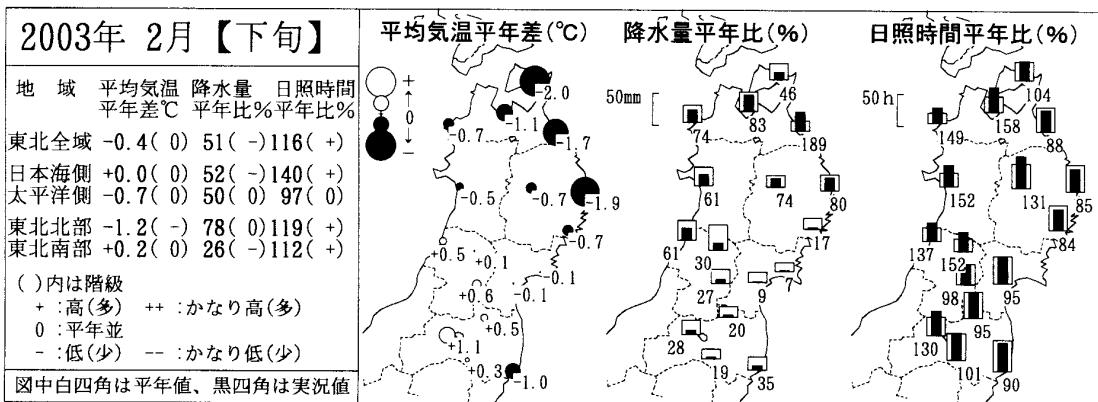
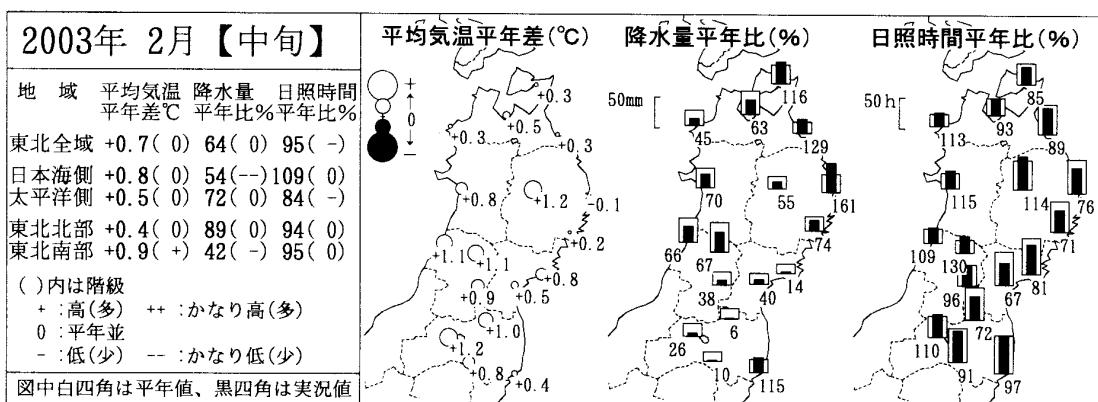
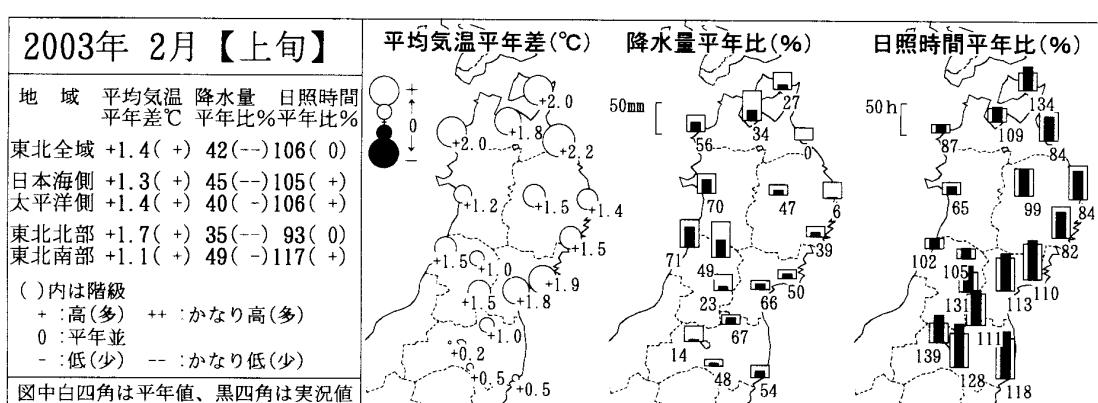
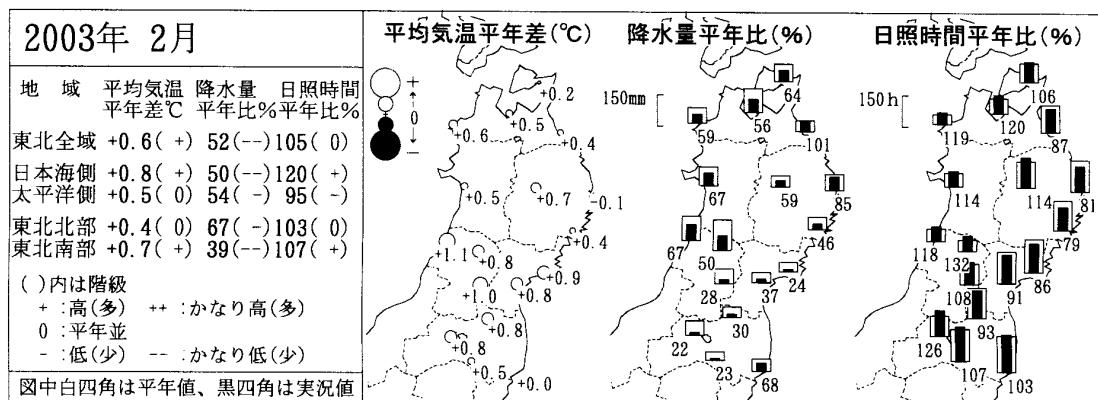
観測値欄の記号は、×：欠測 )：欠測日を含む -：現象なし ---：観測をしていない

階級は +：高い(多い) 0：平年並 -：低い(少ない) \*は「かなり」を表す

月最深積雪と月降雪量の階級については、平年値が「1cm」以上の場合のみ表示する

注) 階級は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3階級とし、それぞれの階級幅は、1971～2000年の30年間ににおいて出現した値を等確率(33.3%)に区分しています。また、低い(少ない)方または高い(多い)方から出現率10%の範囲を、それぞれ「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」と表し、補足的に用います。本資料の本文にある階級の表現も、「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」に該当する場合はそのように記述し、細分地域により階級表現が異なる場合は地域を細分して記述しています。

(5) 2003年2月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



注) 細分地域

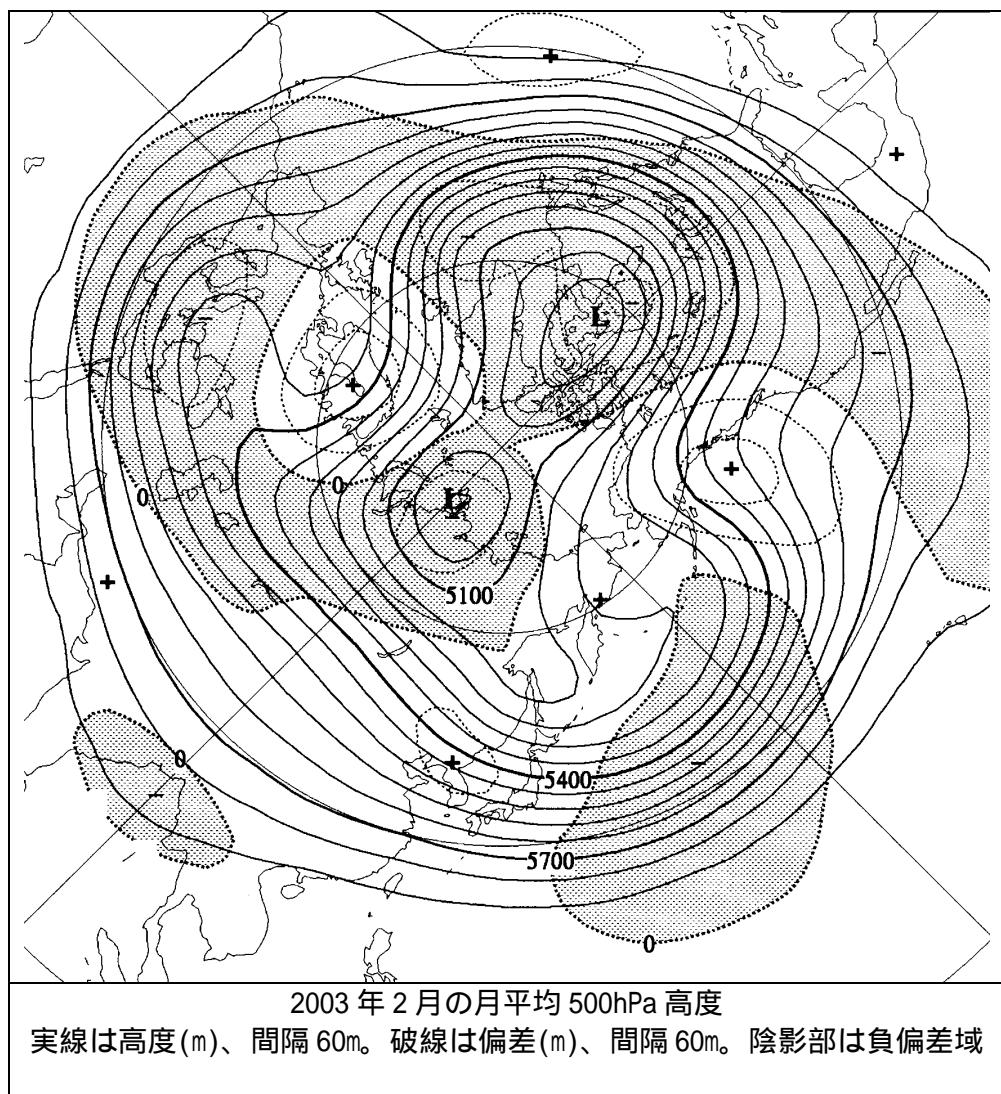
東北日本海側：青森県津軽地方、秋田県、山形県、福島県会津地方

東北太平洋側：青森県下北・三八上北地方、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り地方

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

( 6 ) 2003 年 2 月の循環場の特徴



極うずはカナダ北東部とタイミル半島付近に位置し、日本付近は西から広く正偏差（平年より高度が高い状態）に覆われた。これは、極付近の寒気が平年より日本付近に南下しにくい状態を示しており、東北地方の月平均気温は高くなった。

また、日本付近の偏西風の流れは東西流が卓越したため、天気は周期的に変わりやすく、上旬を除き冬型の気圧配置は長続きしなかった。